

青空バス

～仮設住宅での

コミュニティ支援

買い物サービス～

「夢プロジェクト」

【はじめに】

3月11日に起きた東日本大震災。日本は未曾有の大被害を受けた。震災後、TVではほぼ毎日のように被災地の状況が流されている。半年近くたった今でもそれは変わらず、少しずつ復興はされてはいるが、調べれば調べるほどに問題点はたくさん見つかったている。

なかでも、調べてみると高齢者においては特に問題が多いように感じた。そこでそのたくさんある問題の中で、直接高齢者への生活に影響する、消費について手助けできるようなプロジェクトを考えた。

【現在起こっている問題】

仮設住宅が震災後に被災地では多く作られている。仮設住宅とは警戒域などに指定された区域の住民の移住先として、家が崩壊したことなどにより自宅に住めなくなった住民の移住先として、また被災者の中の避難所で生活している住民の移住先として作られているが、現在この仮設住宅の入居について問題が起きている。

仮設住宅は抽選で入居者が決定され、その倍率は決して低くはない。しかしながら入居が確定した人の中にはそれを辞退する方もいる。しかも数人ではなく、かなりの人数がそれを行っている。

理由としては、仮設住宅の立地の利便性の低さなどがあげられる。仮設住宅に移る前の避難所などではたくさんの人々が避難していたため、最寄りの病院などに送迎バスが運行されていたが、数の多い仮設住宅ではすべての地域を回ることが難しくなっており、最寄りのバス停や、仮設住宅などに行かなくてはならないという事態が起きている。

病院だけではなく、最寄りのスーパーまでも距離があり、病院以上に送迎バスの数は少ない。徒歩で最寄りのバス停までに30分や、往復で6kmあたりなど、高齢者にとっては厳しい状況である。

またもう一つ上げられる問題が高齢者の孤独死である。孤独死とは、仮設住宅などで高齢者が一人で生活をしているなどで、誰にも看取られることがなく、突発性の疾患によって死亡するケースである。阪神淡路大震災の時にも孤独死は問題となっており、仮設住宅での孤独死が233人とされている。今回の震災においても宮城県で2人の孤独死が確認されている。また、孤独死は震災直後ではなく、震災から数年たった後などに多くみられるため、対応が急務とされている。

【プロジェクトの概要】

以上の問題点を踏まえ、今回のプロジェクトの目的を
買い物の支援
配給の支援
高齢者を中心とした憩いの場の設立 とする。

「夢プロジェクト」

の買い物の支援においては、バスを中心に地域ごとではなく仮設住宅集落の単位で高齢者を主な対象とした送迎サービスを行う。これにより、高齢者をはじめとする不自由な方の生活の手助けを行う。

の配給の支援では送迎だけではなく、買い物自体にあまり行かない方のためにバスを用いた移動販売も同じく行う。また、前もっての注文も募り、買い物代行についても承る。

高齢者を中心とした憩いの場の設立ではバスの待ち時間などを使って気軽に使ってもらえる、病院の待合室のような雰囲気のある場所を作る。

以上が目的の概要である。

【現在行われている類似のボランティア】

被災地では震災以降様々なボランティアやサービスが行われている。しかしながらこれらのサービスにも問題点や改善点が存在している。

「Mission Vision Van」では、2011年3月の東日本大震災による被災地域・避難者の人々に、適切な眼科医療を提供しており、

今後、災害時における眼科での緊急医療支援に備える

平常時には、過疎地における訪問診療の実現

教育・啓発活動への活用

などの活動を行っている。が、生活に密着していない。無料で高度な医療技術を提供してくれる半面、地区や期間が限定されてしまうという問題点がある。

被災地ではないが、埼玉県ふじみ野市では、今年の11月1日から、ボランティアが援助の必要な高齢者の買い物や掃除などを1時間300円で手伝い、受け取った商品券を地元商店街で使う、地域支え合い事業がはじまっている。ほかにも同じようなボランティアは存在し、相場では500～800円/hである。

このようなサービスも存在するが、有償であるため根本的にボランティアの枠を超えている。

また、最も類似しているサービスの一つに被災地である南三陸町のウジエスーパー無料送迎お買物バスがある。

このスーパーでは、8月5日から水曜日を除く一日2回午前と午後に1本ずつの往復バスがスタートした。スーパーまでの道の中で、7カ所の場所に寄り、片道1時間。スーパーでは50分の買い物時間を設けている。また、南三陸町在住の方に限り、往復バスによる時間がとれない場合はカタログによる注文を受け翌日にお届けする買い物代行サービスがある。

しかしこれにも問題点があり、バスの本数が少ない。またバスの停車区間が長い、といった指摘もある。

「夢プロジェクト」

このような類似のサービスの問題点

- ・生活に密着していない
 - ・有償である
 - ・バスの本数が少ない。またバスの停車区間が長い
- に着目してサービス内容の詳細を決定する。

【問題点の解決】

まず、お年寄りがサービスの中心ということで、

- ・気軽に集まれるコミュニティを設ける
買い物に出ると同時に人とのふれあいの機会を作る。
- ・買い物同行サービスも並行して行う
足が不自由な方などに付き添い買い物を行う。

より多くの方に使っていただく

また、高齢者だけではなく、仮設住宅全体の利便性を大きくするというを目的にし、

- ・本数を一日3～4本に増やす。

朝の早い時間と夕方過ぎに一本ずつ。高齢者だけではなくほかの世代の方にも使っていただく。

- ・回る場所を増やす

高齢者の負担を減らすために、短い区間、または仮設住宅をバス停として運行をおこなう。

【メリット】

期待される効果としては、買い物などの利便性の不足によって敬遠していた仮設住宅への入居に前向きになれる。高齢者向けに考えることによって結果的にほかの世代の利便性も高まる。などがあげられる。

利便性のほかにも、高齢者のコミュニティを増やすことによって高齢者が外に出る機会を増やし、孤独死の防止につなげることができるなどがあげられる。

また、このプロジェクトは被災地だけではなく、地方の買物難民と呼ばれる人々（郊外型の大規模店との競争や深刻な不況による経営難などから、従来型の商店街や駅前スーパー等の店舗が閉店することで、その地域住民が生活用品の購入に困るという社会現象、またはその被害を受けた人々）に対しても有効な手段になると考えられる。